

働き方改革で推進部

生産性の向上目指す

大日本コンサルタントは働き方改革とダイバーシティ推進を加速する。2017年6月期から3カ年の第11次中期経営計画で定めた「業務実施プロセス・働き方の改革」の具体的な取り組みとして、長時間労働の是正や就労環境の改善、福利厚生制度の拡充を図る各施策を7月から実施する。

働き方改革の取り組みとして、1日付で社長直轄の「働き方改革推進部」を設置した。梅基英明執行役員が推進部長に就き、外部の組織変革コンサルタントと協業し、中部支

社と北陸支社をモデル支社としてさらなる生産性の向上を目指す。あわせて4月から試行したプレミアムフライデーを7月以降も継続を検討する。

ワーク・ライフ・バランス(WLB)の改善とダイバーシティの対応は、ベビシッター利用料金の一部補助制度を導入。育児支援事業などを手掛けるキッズラインと法人契約を結び、育児中の社員を経済面でも支援する。さらに男性社員の育児休職も奨励する。特に配偶者の産後休暇中に育児休職を取得した場合

は、そのうちの1日に給与を支給する。

18年4月からは多様な働き方を推進するため、全社員を対象に「就業地選択制度」を

導入する。制約のある社員も安心して就業を続けられるように、育児や介護などにより就業地を選択した場合、会社事由による転勤をなくす。

建築金物見本市開催 受注目標160億円設定

杉田エース

建築金物総合商社の杉田エース(杉田祐介社長)は6月30、1日の両日、東京都文京区の東京ドームシティで、建築金物を中心とした見本市「スギフェス」を開いた。取扱メーカー95社が参加した。開幕式典で杉田社長は「今年度のスギフェスの受注目標は昨年度より5億円多い160億円に設定した。全体の実績では、17年3月期末までに

559億円の納品実績がある。ことしこそは600億円を目指し、事業に一層注力する」と表明した。その後、各社の代表とテープカットと鏡割りをした。写真。会場には、デザインオフィスnendoとコラボレーションした、宅配ボックスの役目をする防水袋「oitec」を出品した。アマゾン社の最大サイズである縦60センチ、横40センチ、高さ30センチまでの箱が入るサイズで、印鑑も収納できる。ほかに、オフィスの棚に保存できる備蓄食糧「イザメシ」